# きらぼし海外レポート

2023年 11 月号

きらぼし銀行　海外戦略部

## CONTENTS

❒ ベトナム現地レポート　KIRABOSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM CO., LTD.　岩田
＜テーマ＞「VJCC と協力覚書締結」

❒ タイ現地レポート　バンコク駐在員事務所　伊原
＜テーマ＞「タイの EV トゥクトゥク」

❒ 海外スタートアップレポート
＜テーマ＞「グローバル起業大国を目指す韓国」
インタビュアー：　きらぼしコンサルティング　蓑田

❒ 交流会開催レポート
「青島国際経済合作区 2023 年投資促進交流会について」

❒ きらぼし銀行の海外ビジネスサポートネットワーク

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

## ーベトナム現地レポートー

# 「VJCC との協力覚書締結」

ベトナム日本人材開発インスティテュート（VJCC インスティテュート）は、2000 年に国際協力機構（JICA）および外国貿易大学（FTU）の協力により設立された機関です。設立以来ビジネス研修、日本語研修や企業・文化交流事業を通して、ベトナム経済を担う質の高い人材を育成するとともに、ベトナムと日本の相互理解を促進する機能を果たしてきました。この度、VJCC ときらぼし銀行、きらぼしベトナムの三社にて協力に関する覚書を締結しました。

### ◆ VJCC について

まずは VJCC の取り組みについてご紹介いたします。大きな柱となっているのが経営塾です。日本式経営の伝授を通じて企業経営、管理分野で高度な人材を育成することを使命に掲げる VJCC では、ベトナム企業の経営者や幹部が、企業経営に必要な実践知識を 10 か月かけて体系的に学べる経営塾を運営しています。2009 年から始まったこの取り組みは 2023 年に 18 期目を迎え、卒業生は約 700 社、850 人に上ります。日本人専門家を中心とするビジネス経験豊富な講師陣による研修は、座学だけでなく、グループディスカッションや訪日研修も行われ、実践的な学びが提供されています。また、2017 年からは日本式国際ビジネス学士課程（JIB）として、貿易大学にて日本式経営や国際ビジネス、コミュニケーションスキルを学ぶ学士課程もあり、将来のビジネス幹部候補生の育成にも力を入れています。経営塾と学士課程の関係では、経営塾企業による奨学金の提供や、必修となっているインターンシップの受け入れなどの連携も行っています。今回の覚書締結は学士課程の始業式の一部に組み込んで頂き、執り行われました。

### ◆ 覚書締結の目的

きらぼしグループでは優れた技術を有する日本の中堅・中小企業の海外展開支援に力を入れています。また海外のニーズにあった日本企業を紹介することで、新たなビジネスの創出を目指すマーケットイン型の海外展開サポートを行っています。

今般の協力覚書締結により、きらぼしグループと VJCC のそれぞれが持つネットワークを活用し、日本とベトナム両国の企業同士の単なるビジネスマッチングだけでなく、デジタル分野やスタートアップ支援といった様々な分野での協力を目指して参ります。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

〈始業式で挨拶される VJCC Hien 所長〉

〈MOU 締結の様子〉

以上

KIRABOSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM CO.,LTD.

岩田

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

## ータイ現地レポートー

# 「タイの EV トゥクトゥク」

以前のレポートで取り上げましたように、バンコク中心部は鉄道網が発達してきていますが、物流業界でいうところの『ラストワンマイル』では不便に感じることも多いです。例えば、日本では駅から 10 分程度の距離を歩くことはよくあると思いますが、タイでは、年間の平均気温が 30 度近いことや、整備が行きとどいていない箇所のある歩道、雨季のスコールなど、簡単に歩くことができない場合も多々あります。今回はそうした不便の解消に役立っているサービスについてご紹介します。

○ 『ラストワンマイル』の移動手段

バンコク中心部で人々が『ラストワンマイル』の移動手段として現在もっとも一般的なものは、バイクタクシーです。路地の入り口や大型の商業施設・オフィス周辺に、タイの交通局が管理するバイクタクシー（オレンジ色のジャケットが目印）をよく見かける他、シンガポール発の『Grab』、北欧・エストニア初の『Bolt』といったアプリを通じて利用するサービスがあります。もちろん自動車のタクシーもありますが、近い距離の際には、乗車拒否や割高な料金を提示されることがあり、不便な印象です。

○ EV トゥクトゥクサービス『MuvMi（ムーブミ）』

『MuvMi』は 2016 年に創業したタイの企業が手掛けるサービスで、アプリを通してトゥクトゥクの配車から決済までを行い、利用する車両が全て EV という特徴があります。

街中に停車している通常のトゥクトゥクは料金メーターが設置されておらず、料金は全て事前交渉が必要となるため、煩雑で特に外国人は割高な料金を請求されるケースがあります。一方、『MuvMi』は配車の際に料金が確定しており、乗車時に QR コードの読み取りで決済します。英語で操作が可能な点や、アプリへの入金がクレジットカードでも可能なため、観光や出張などの際にも利用することができる点も魅力です。

＜『MuvMi』の EV トゥクトゥク/静かで揺れも少ない＞

○ 終わりに

バンコク中心部には小さな子供を連れた日本人の居住者や観光客も多く、そうした方々にとっては事故のリスクが低く、決済や値段の面でも安心なサービスとして『MuvMi』が重宝されている印象です。また、一度に 6 人まで乗車できる乗り合い形式のため、こうしたサービスの拡大により、バンコク名物の路地の渋滞が少しでも緩和されていってほしいものです。

以上

バンコク駐在員事務所　伊原

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

## ―海外スタートアップレポート―

# 「グローバル起業大国を目指す韓国」

現在、韓国の数多くのスタートアップ企業で日本進出を目指す動きが活発です。なぜ日本へ進出するのか？韓国のスタートアップ企業の状況はどうなのか？　韓国大手銀行の新韓金融グループで、スタートアップ企業支援を行う新韓フューチャーズラボのキム・ヨンミン氏のお話を通じ、韓国のスタートアップ企業についてご紹介します。

○韓国のスタートアップの現在

韓国のスタートアップ（以下、SU）企業の正確な統計数字はありませんが、2 万社以上は存在するといわれています。経済規模や人口等を考えると韓国で起業する人は比較的多く、人材・資本・政府政策・市場等の側面から SU 企業ブームが広がったと考えています。

韓国は、政権が変わる度に SU 企業を支援する政策を展開しました。結果、SU 企業への投資金額が持続的に増加し、海外留学経験者、大企業やコンサルティング出身者など有能な人材が起業しました。

大学発の起業も活発で、創業を支援するさまざまな政策を展開しています。「韓国創業生態系の変化分析」というレポートによると、創業者が 30 代以下の SU 企業は全体の 22%程度存在し、大学発で成長した SU 企業数はかなりの数に上ります。

また、米経済誌『フォーブス』が選定する青年グローバルリーダーに、2016 年に韓国の SU 企業5社から 16 人選定されて以降、毎年多くの SU 企業が選定されるなど、世界的な評価も高まっています。

業種の傾向について、ユニコーン企業（創業 10 年以内、企業価値1兆ウォン以上の未上場 SU）に関していえば、現状はサービスプラットフォーム、電子商取引に関連する企業が多いのですが、最近は AI 分野で頭角を現す SU 企業が出現しており、今後は技術を基盤にしたディープテック SU のユニコーンの誕生が期待できます。

○韓国政府の支援

韓国政府は、中小ベンチャー企業部を中心に SU 企業に対して全面的な支援を行っており、また、金融委員会も資金供給するなど、各省庁でも特化した政策支援を行っています。

投資資金については、韓国ベンチャー投資、韓国成長金融などの政策金融機関を通じて、年間約5兆ウォン以上の「呼び水」ファンド（FoF 〔fund of funds〕）を供給しています。

融資についても、技術保証基金などの保証による融資資金を供給しており、テクノロジー企業の育成のため R&D 資金の支援も行ってきました。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

また、CVC（企業型ベンチャーキャピタル）制度改善、エンジェル投資税制支援、創業者の複数議決権導入、ストックオプション付与対象資格緩和、ベンチャー企業の成長を支援する特別法延長など、政策規制改善により SU 業界全般の活性化を図っています。

加えて最近、「スタートアップコリア戦略会議」で中小ベンチャー企業部が「スタートアップコリア総合対策」を発表し、「大韓民国をアジアナンバー1、世界3大起業大国に跳躍させる」と明言するなど、韓国がグローバル起業大国として成長するための戦略を次々と打ち出しています。

○新韓フューチャーズラボの支援

韓国の金融機関も、時代の変化に合わせて機関内の多様なデジタル転換とオープンイノベーションを積極的に推進し、SU 企業との協力を通じた共同成長を目指しています。

新韓金融グループもグループ全体で SU 企業を支援しており、「新韓フューチャーズラボ」はその代表例です。

新韓フューチャーズラボとは SU 企業を支援するプログラムのことで、銀行、カード、証券、保険会社などを含め、新韓金融グループ全体の会社が参加しています。

投資採用支援、ネットワーク提供、オフィススペースの支援、メンター紹介、最適な資金供給など SU 企業を全面的に支援しており、これまでに 400 社余りの SU 企業を選抜し、700 億ウォンを投資しました。また、現在約 150 件の協力案件を進めています。

シードからシリーズA・B・Cまで投資段階に応じた投資ビークルを用意し、IPO から M&A まであらゆる支援体系を構築していますし、政府機関と協力して R&D 資金を供給することもあります。選抜、投資、育成した SU 企業が新韓証券会社と IPO のための上場主幹事社契約を締結するなど、着実に成果が出ています。

SU 企業との協業にも積極的で、マーケティングチャネルの提供、共同開発、ジョイントベンチャーの共同設立など取り組みは多様です。

○日本と韓国の SU 関係

新韓金融グループは世界 20 カ国 255 の海外拠点を通じ、韓国 SU 企業の海外への進出に際して、準備から現地で本格的に成長するまでサポートしています。

韓国と日本は文化的に類似した面が多く、技術的にも経済的にも相互補完的な関係にあります。日本は購買力と市場規模・資本市場の安定性などが高いことから、韓国の SU 企業の日本進出が拡大している状況です。

しかし、日本で活動するには、法人設立から口座開設、パートナー紹介、人材採用、オフィススペースの提供などあらゆる面でサポートが必要です。韓国ですでに業歴があったとしても、日本ではすべてが初めてで、リソースが不足しがちです。適切なパートナーや人材を探すことが大切です。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

一方、日本の SU 企業から見た韓国市場ですが、韓国への参入チャンスは今後増えると思われます。

韓国は海外の有望企業の受け入れにも前向きです。最近では、政府レベルで有望な海外企業のインバウンドを促進するための多様な支援政策を打ち出すとも公言しています。

アジア市場全体への参入を目指す日本の SU 企業ならば、韓国市場も視野に入りますし、特にテクノロジーを基盤とする企業なら、韓国で成功する確率はさらに高まるでしょう。韓国を皮切りにアジア全体に、さらに世界に展開していくことを期待しています。

〇新韓フューチャーラボ・ジャパンの活動

韓国と日本の SU 企業の活動を活性化すべく、2022 年に「新韓フューチャーズラボジャパン」を立ち上げました。

1. 韓国 SU 企業の日本進出を全面的に支援
2. 日本 SU 企業の発掘・協業新事業の創出
3. 日韓初の SU 投資ファンド立ち上げを通じた、韓国と日本の有望 SU 企業の発掘投資と連携
4. 日韓 SU のエコシステムとコミュニティ構築
5. 本業と連携した SU に便利な金融サービスの提供
6. その他 SU に便利なオフィススペースの提供

これらの取り組みを通じて、新韓フューチャーズラボジャパンは日本と韓国のベンチャーSU エコシステムの連携と拡張、相互成長を支援する存在となり、SU 企業が安定的な発展を続けられるよう貢献していきます。

以上

インタビュアー： きらぼしコンサルティング　蓑田

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

## ―交流会開催レポート―

# 「青島国際経済合作区 2023 年投資促進交流会について」

11 月 7 日に青島国際経済合作区投資促進センターときらぼし銀行が共同で青島国際経済合作区 2023 年投資促進交流会（以下交流会）を開催しました。今回は、交流会開催についてご報告させていただきます。

東京きらぼしフィナンシャルグループ
きらぼし銀行

×

青島国際経済合作区投資促進センター

（青島日本国際ビジネスハブ）

×

中国青島工商中心（日本）

〇交流会について

中国の経済成長に伴い世界の工場から世界の市場へと中国の位置付けが変化し、中国で製造したものを中国で販売すると言ったビジネスモデルが必要とされる時代となりました。今回の交流会は経済成長とともに特に日本企業の中国進出が一巡した現在、中国国内でのビジネスチャンスを掴み取る為に、中国現地企業との連携のきっかけ作りをすることで日本企業の中国進出を促進しようと企画されたものです。

当日は、大企業から中小企業、またスタートアップ企業と幅広いステージの企業が合計 25 社参加しました。中国からはハイアールアジアＲ＆D株式会社、ハイセンスジャパン株式会社、MGI Tech Japan 株式会社、といった企業が参加しました。特にハイアールアジアＲ＆D株式会社とハイセンスジャパン株式会社は日本においても多くの方が目にしたことあるブランドではないでしょうか。両社ともに日本に研究開発拠点を設置しております。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

〇今後の連携について

　交流会に参加した中国企業からは今回のイベントをきっかけに今後とも同様のイベントや中国でのビジネス機会を探している会社などとの連携を強く希望されました。また、実際に今回の交流会を機に日本のスタートアップ企業との連携も始まっております。きらぼし銀行ではマーケットイン戦略に基づき海外企業との連携を推進しており、独自の海外現地ネットワークを構築しております。ご興味、ご関心がある方はぜひご連絡ください。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

## きらぼし銀行　海外ビジネスサポートネットワーク

### きらぼし銀行海外 4 拠点の概要

| | |
|---|---|
| 上海：綺羅商務諮詢（上海）有限公司 《きらぼし上海》 | |
| 住　所 | 中華人民共和国上海市黄浦区淮海中路918号久事復興大厦24－C1室 |
| ウェブサイト | http://www.kiraboshi-bc.com.cn/ |
| 北京：信銘冠嘉商務諮詢（北京）有限公司 《北京合弁会社》 | |
| 住　所 | 中華人民共和国北京市大興区金盛大街二号院五号楼1階101－32 |
| ホーチミン：KIRABOSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM COMPANY LIMITED 《きらぼしベトナム》 | |
| 住　所 | Unit 6A Level 6, Saigon Centre, Tower 1, 65 Le Loi, Street, Ben Nghe Ward, District 1, Ho Chi Minh City, VIETNAM（サイゴンセンター6 階） |
| ウェブサイト | https://kiraboshi-bc.com.vn/ |
| タイ：Kiraboshi Bank, Ltd., Bangkok Representative Office 《きらぼし銀行　バンコク駐在員事務所》 | |
| 住　所 | 689 Bhiraj Tower at EmQuartier,Unit 3065, Level 30, Sukhumvit Road, Khlong Tan Nuea Subdistrict, Watthana District, Bangkok 10110, Thailand |

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

## 業務提携先

**《海外提携銀行》**

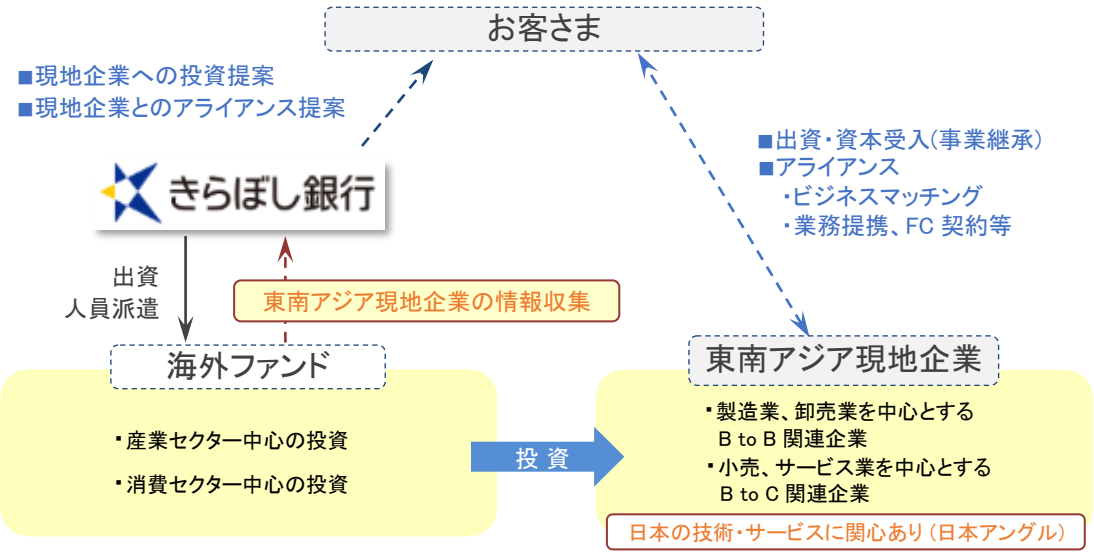
| | | | |
|---|---|---|---|
| タイ・・・・・・・・・・ | カシコン銀行 | インド・・・・・・ | インドステイト銀行 |
| ベトナム・・・・・・ | ベトナム投資開発銀行 | フィリピン・・・ | メトロポリタン銀行 |
| インドネシア・・・ | バンク・ネガラ・インドネシア | 韓国・・・・・・・ | SBJ 銀行 |

**《提携行政機関》**

独立行政法人日本貿易振興機構、独立行政法人国際協力機構、株式会社日本貿易保険

## 海外ファンドを通じたサポート

取引先の海外バイアウトやアライアンスのニーズに対応すべく、海外現地ファンドへの LP 出資や GP への人員派遣を実施しています。




## お問い合わせ

きらぼし銀行　海外戦略部

- 電　話・・・・・・・・　03-6447-5828
- E-mail ・・・・・・・・・i580@kiraboshibank.co.jp
- 担　当・・・・・・・　吉田、児玉、木村、武、石川

【２０２３年１１月現在】

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。